

# Freude

vol. 9-7 2016.12.21.wed

お正月のあいだ  
おそろいしこころね〜。

大阪フロイデ合唱団 Tel 06-6358-2626  
〒530-0041 大阪市北区天神橋2-1-18-4B  
ホームページ <http://www.osakafreude.com>  
メールアドレス [info@osakafreude.com](mailto:info@osakafreude.com)

## わたし、フロイデ好きですねん

自信持って声出したのに、「その声アカン」って言われると、へこむよねえ。

でも、これこそが、私が、フロイデがクセになってるところですねん。（「アカン」と言われることに喜んでるわけではありません、そんな趣味はありません、念のため。）

「団費高いし」「会場くるくる変わるし」「先生コワイ」って、言われているそうです、ウチって。会場の不便は否定しません、ホンマに苦労してます。でも「先生コワイ」と「団費高い」は、一見そう見えるけど、中身よく見たら、ワタシ、違うと思ってますねん。で、話題を戻して、、、

曲の練習でも「違う声出す人は、ちょっと黙って聴いといて」なんて言われて、傷ついたりするけど（それでも先生、言い方だいぶん気いつかってはりますわ）それって、初めの段階から先生が「ここは、こんな響きでこんな色の音を作ろう」ってイメージを描いてはるから。たぶん先生の頭の中にはオケの音や楽器の聴かせどころも全部鳴っていて、そのうえで、合唱への要求をしはるんやと思うねん。先生はやみくもにコワイじゃなくて、音楽の姿を持ってはるから、それと違う声に対してきっちり指摘しはるってこと。妥協しはれへんのです。「こんな声を出してほしい」を我々に示す方法として、違ってる声を一時的に出さないでもらうことで、目指す声をみんなに示しはる。で、練習させはる。モチロン、我々なら修正できるはず、と思っってはるから指摘してくれる。

本番の音楽監督が練習の最初から音楽の方向を示してくれるって、稀有やと思う。もちろん、亀井先生の要求がよくわからなくて自分でどうアプローチしたらいいかわからないことも多いけど、そんで先生もイライラしはって「そこまで言わんでええやん」って場面も無いわけじゃないけど、、、そこはホラ、いろいろ試させて見付けさせてくれる由也先生、正しい音を超フォルテで叩いてくれる真壁先生、という絶妙の指導陣体制(^O^)/。 団費、お値打ちやと思うねんけどなあ。

世の中には「うたってスッキリ発散系合唱団」はたくさんあるし楽しいと思う。ウチはそういう点では「しんどい忍耐追求系合唱団」やけど「完成したもの」は、ちょっとスゴイよ、と思う。

各人のスキルも、放っておくとどうしても「うたってスッキリ自己満足カラオケ系」の声どまりなのが、作品を表現するための「合唱の響き」に必要な声として表現の幅がチョイ広がってると思う。特に、2015年からいずみホールでの取組になってから、よりいっそう、その積み重ねができてくる気がする、日々指摘されることが、ステージにちゃんとつながってる実感があると思う。

ウチの売りってこういうことやと、ワタシは思ってますねん。歯ごたえのあるやりがい「しんどいけど楽しい、しんどいから楽しい、とびきりの達成感」。難しいからこそオモロイやん！て。

新人にも、或いは、いずみホールになる前に休団したOBOGにも、もうひとこと、声掛けたい。こんなに楽しくてしんどくて、でも飛びきり幸せな達成感、ほかには無いよ！ホンマやで！ (u)

